

# 第5学年 国語科学習指導案

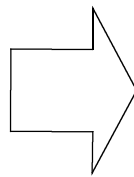
日時 平成26年10月6日(月) 5校時  
児童 男子11名 女子22名 計33名  
授業者 教諭 西野 裕信

- 1 単元名 椋鳩十作品のよさを本のショーウィンドウで推薦しよう  
主教材 「大造じいさんとガン」(光村図書 5年)  
補助教材 「月の輪ぐま」等 椋鳩十作品

## 2 単元を貫く言語活動と付けたい力の説明

### 【付けたい力】

- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる力。(Cエ)



### 【単元を貫く言語活動】

- 優れた叙述に着目しながら椋鳩十作品を読んで、本のショーウィンドウで推薦する。
- カードには、「登場人物紹介」「魅力的な表現」「心にぐっときた場面」「おすすめのメッセージ」をまとめる。

### 【その特徴】

- 作品の優れた叙述に対する自分の考えをまとめやすい。

## 3 単元について

### (1) 教材について

小学校学習指導要領における第5学年「C 読むこと」の領域目標は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。また、本単元に関わっての指導内容は「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」である。

本単元は、登場人物の相互関係や心情についての描写をとらえ、優れた叙述について自分なりの考えをまとめることを主なねらいとしている。本作品は、大造じいさんと残雪との知恵比べを数年にわたって描いた作品である。はじめは敵対関係だった大造じいさんと残雪だったが、正々堂々と戦おうとするよきライバル関係へと変化したことが、登場人物の行動や会話、情景描写から捉えることができるようになっていく。残雪のもつ知恵や勇気、統率力のすばらしさと、残雪の行動を人間に引き写して、感動をもって対している大造じいさんの人間らしさ、正義感、愛情をも感じることができる。

本単元の学習を通して、登場人物の相互関係や心情についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる力を高めたい。また、情景描写などの表現の工夫が使われていることも理解させたい。

### (2) 児童について

児童はこれまでに、5年「のどがかわいた」の文学的な文章を読む経験をしている。「のどがかわいた」では、登場人物の相互関係や心情や場面についての描写をとらえる学習をしてきた。登場人物の関わり合いについて感想を書くという言語活動に向けて、登場人物の人物像や心情を読んできた。また、

書いた感想を読み合い自分の考えを深める学習をしてきた。本を推薦するという言語活動につながる活動として、4年「一つの花」で本を紹介するという学習をしている。

これらの学習を通して、登場人物の人物像をとらえたり出来事から人物の心情を読み取ったりする力が付いてきた。しかし、登場人物の相互関係から登場人物の深い心情をとらえることは十分とはいえない。

以上のことから、この単元では登場人物の相互関係の変化に着目し、心情についてとらえる力を高めていきたい。また、登場人物の心情や場面について描写された優れた叙述について自分の考えをまとめる力をつけていきたい。

### (3) 指導にあたって

本単元では、「椋鳩十作品のよさを本のショーウィンドウで推薦する」ということを単元のゴールとして設定する。

「みとおす」段階では、椋鳩十作品のブックトークを行い、椋鳩十作品のよさを推薦するという意欲を高めていきたい。その際、教師が作った本のショーウィンドウを紹介することでこれからの学習の見通しや児童の関心を高めていきたい。また、作品を読んで感動するのは登場人物の相互関係が変化しているところであることに気づかせ、これからの学習の見通しを持たせたい。本のショーウィンドウは、図書室に設置して3・4年生に読んでもらえるようにする。

「ふかめる」段階では、毎時間、「大造じいさんとガン」をもとに、「本のショーウィンドウ」のパーツを仕上げていく。初めに、登場人物の相互関係をとらえさせるために「登場人物紹介」のパーツを書く。次に、登場人物の心情について優れた叙述が書かれた内容や表現をとらえ、自分の考えをまとめるために「魅力的な表現」「心にぐっときた場面」のパーツを書く。最後に「おすすめメッセージ」を書いて推薦する。

「いかす」段階では、自分の選んだ作品について、2次で学習したことを生かして「本のショーウィンドウ」を作っていく。作ったあと交流し、図書館前に作品を掲示する。単元の最後には、「椋鳩十作品のよさを本のショーウィンドウで紹介する。」という言語活動でどんなことを学んだか学習の振り返りをしていきたい。

並行読書については、複数の椋鳩十作品に触れさせ、その中でも一番推薦したい作品を選んでおくようにしたい。その際、登場人物の相互関係が変化している部分や心に響いた表現に付箋を付けながら読むように指導したい。

## 4 単元の指導目標および評価規準

### (1) 単元の指導目標

○進んで物語を読み、作品のよさについて考えようとしている。(関心・意欲・態度)

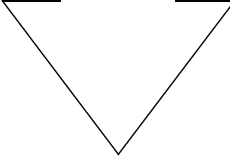
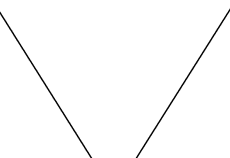
◎登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。(Cエ)

○情景描写などの表現の工夫が使われていることを理解できる。(伝国イ(ク))

### (2) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・進んで物語を読み、作品のよさについて考えようとしている。	・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめている。 (Cエ)	・情景描写などの表現の工夫が使われていることを理解している。 (イ(ク))

5 指導計画（10時間扱い）

学習過程	主な学習活動	教師の支援	評価基準
<p>みとおす (2時間) 単元のゴールを知り、 これからの学習のイメージをもつ。</p> 	<p>① 椋鳩十作品の紹介を聞き、学習のめあてをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>椋鳩十作品のよさを「本のショーウィンドウ」ですいせんしょう。</p> </div> <p>② 読みの視点を理解しながら、ゴールのイメージをもつ。</p>	<p>○ブックトークを聞くことにより、作品のよさに気づかせる。</p> <p>○「本のショーウィンドウ」を書くために読み取っていかなければならないことを確認しながら、読みの視点を持たせる。</p>	<p>★椋鳩十作品に関心を持ち聞こうとしている。 (関心・意欲・態度)</p> <p>★「本のショーウィンドウ」の書き方を知り、学習のゴールのイメージをつかんでいる。 (関心・意欲・態度)</p>
<p>ふかめる (4時間) 「大造じいさんとガン」の読みを深め、「本のショーウィンドウ」の各項目を作る。</p> 	<p>③ 「登場人物紹介」を書く。</p> <p>④ 「魅力的な表現」を書く。</p>	<p>○「登場人物紹介」が書けるように登場人物の相互関係に気づかせる。</p> <p>○「魅力的な表現」が書けるように登場人物の心情がよく表れている表現に着目させる。</p> <p>○情景描写を挙げている児童の考えを取り上げ、表現効果について考えさせる。</p>	<p>★場面の設定や登場人物の相互関係をとらえている。(Cエ)</p> <p>★登場人物の心情の優れた表現に気づいている。 (Cエ) (伝(イケ))</p>
	<p>⑤ 「心にぐっときた場面」を書く。 <b>(本時)</b></p>	<p>○「心にぐっときた場面」が書けるように登場人物の相互関係や心情の変化に着目させる。</p>	<p>★登場人物の相互関係や心情の変化をとらえている。(Cエ)</p>
	<p>⑥ 「おすすめのメッセージ」を書く。</p>	<p>○推薦する時の言葉を掲示しておくことで、相手に伝わる推薦の言葉を書くことができるようにする。</p>	<p>★自分なりの根拠を持ち推薦する文章を書いている。(Cエ)</p>

<p>いかす (4時間) 自分が選んだ作品の 「本のショーウィンドウ」を作る。</p>	<p>⑦⑧「大造じいさんとガン」と同じ形式で、「本のショーウィンドウ」を書く。</p>	<p>○「大造じいさんとガン」で学習したことを振り返らせながら「本のショーウィンドウ」を書かせる。</p>	<p>★自分が選んだ椋鳩十作品で、「本のショーウィンドウ」を書いている。(Cエ)</p>
	<p>⑨「ショーウィンドウ」を使って交流する。</p>	<p>○作品のよさ、改善点を明らかにし、考えがさら深まるように交流させる。</p>	<p>★友達との交流を通し自分の考えを深めている。(Cエ)</p>
	<p>⑩今までの学習の振り返りをする。</p>	<p>○「本のショーウィンドウ」を作るという言語活動で、どんな学びがあったのかを意識づけたい。</p>	<p>★今までの学習から新しく学んだことを書いている。(Cエ)</p>

## 6 本時の指導

### (1) 目標

登場人物の相互関係や心情の変化をとらえることができる。

### (2) 展開

過程	学習活動と主発問	時間	○支援の手立て ★評価
みとおす	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 「心にぐっときた場面」を「本のショーウィンドウ」にまとめよう。	4	○登場人物紹介の部分を書いたことを想起させたい。  ○本のショーウィンドウの「心にぐっときた場面」を書く学習であることを確認する。 ○「心にぐっときた場面」を書くために、登場人物の関係の変化に着目しながら考えることを確認する。
ふかめ	3 「心にぐっときた場面」とその理由を考える。 <b>(一人読み)</b> ◆「心にぐっときた場面」はどこでしょう。また、その理由を書きましょう。	7	≪(1)ねらいに沿った一人読みの工夫≫ ・「心にぐっときた場面」とその理由を考えさせ、ワークシートに書かせる。
る	4 「心にぐっときた場面」について交流する。 ①選んだ場面ごとに交流する。 <b>(グループ読み)</b> ・「心にぐっときた場面」のよりよい書き方を確かめるために、同じ場面を選んだ人と交流しましょう。  ②全体で話し合う。 <b>(クラス読み)</b> ・「心にぐっときた場面」と理由を発表してください。 ◆残雪がハヤブサと戦う場面の前後で、大造じいさんと残雪の関係はどのようにかわりましたか。 ◆残雪がハヤブサと戦う場面の前後で、大造じいさんの心情はどのようにかわりましたか。	7                14	○全文を掲示した物を用意し、「心にぐっときた場面」にシールをはらせる。 ○シールをはった場面を確認し、同じ場面を選んだ人同士交流する。  ≪(2)自分の考えを深める活動の工夫≫ <b>グループ読み</b> ・考えを交流することで、自分の読みを確かなものにしたり、友達の読みのよさに気づいたりする。 ・他の人の意見で参考になる部分やアドバイスを自分のプリントに記入させながら聞かせる。  ↓ <b>クラス読み</b> ・人物の関係が変化した場面がでるように意図的な指名をしたい。 ・残雪がハヤブサと戦う場面の前後で、大造じいさんと残雪の相互関係の変化や大造じいさんの心情の変化があることをとらえさせたい。

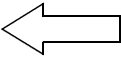
	<p>5 「本のショーウィンドウ」の「心にぐっときた場面」を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「本のショーウィンドウ」の「心にぐっときた場面」に自分が選んだ場面とその理由を書きましょう。</li> </ul>	12	<p>★登場人物の相互関係や心情の変化をとらえることができたか。</p> <p>○大造じいさんの心情の変化をとらえることがむずかしい児童には残雪がハヤブサと戦う場面の前後から考えさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《(3) 言語活動に結び付く場の設定》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「本のショーウィンドウ」の「心にぐっときた場面」に選んだ場面とその理由を文章で書かせる。</li> </ul> </div> <p>○理由を書く時には、人物相互の関係や心情がどう変わったかを含めて書かせたい。</p>
まとめ	6 次時の学習の見通しを持つ。	1	

(3) 板書計画

絵

(残雪との関係)

- ・つかまえない
- ・ただの鳥
- ・いまいましい



- ・ガンの英雄
- ・人間と対等
- ・尊敬

「心にぐっときた場面」の作成例 (ごんぎつね)

「心にぐっときた場面」を「本のショーウィンドウ」にまとめよう。

大造じいさんとガン

椋鳩十

学習のゴール

椋鳩十作品のよさを「本のショーウィンドウ」でせいせんしよう。